森の生きものガイド

2018. 09. 01（第13号）
びわこ地球市民の森
守山市水保町2727

四季折々の森の植物や鳥・虫などの動物を紹介します

１．ヒガンバナ（ヒガンバナ科）

ふれあいゾーンの広い園路にはヒガンバナが咲きます。花茎は３０～５０ｃｍほどで、鮮やかな赤い花を輪状につけます。花期は９月ですが、ほぼお彼岸の頃に満開になります。

ヒガンバナは他の植物とは違った生き方をしている不思議な植物で、花が咲くときには葉がなくて、葉は花が終わった晩秋から伸び始め冬の時期に濃い緑色の葉が見られます。

以前は、田んぼの畦や土手に特に多く見られ、黄金色に稔る稲穂と赤い色の花をつけるヒガンバナはひときわきれいな彩りを見せていました。しかし、田んぼの耕地整理によって畦や土手がなくなり農村地帯ではヒガンバナはほとんど姿を消してしまいました。

こ植物は地方名が多くマンジュシャゲ、キツネノカミソリ、キツネノタイマツなどの他、お墓のまわりなどに多く植えられたことから、シビトバナ、ユウレイバナなどと呼ばれ忌み嫌う地域もあると言われます。地中にある肥大化した葉（りん茎）は有毒です。

２．ウキヤガラ（カヤツリグサ科）

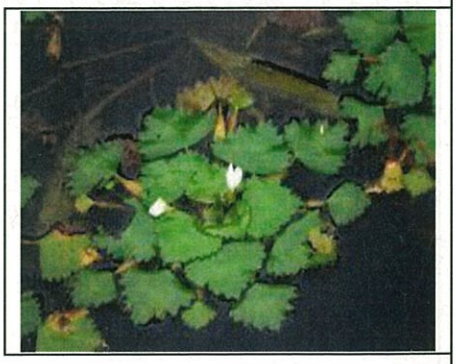
里の森ゾーンの水路にかかる橋の上から、水路を見るといろいろな水生植物が生育しています。その中で、特に多くの面積を占めているのがウキヤガラです。この植物は多年草で、池や沼の周辺、川岸、湿地などに群生します。

茎は三角柱の形をしていて堅くて丈夫です。カヤツリグサの仲間は茎が三角柱になっているのが特徴です。

植物の茎はそのほとんどが円柱形をしていますが、四角柱の形をしている植物もあります。それは「シソ」の仲間の植物たちです。

ウキヤガラの葉は丈夫で堅く、茎の下部に多くつきます。茎の先には小穂をつけます。名前は冬期に枯れて水面にうかぶ姿が戦に使われる矢が浮いているのに似ているところからついたといわれます。

３．ヒシ（ヒシ科）



里の森ゾーンを流れる水路にはヒシが生育しています。ヒシは夏から秋にかけて、湖や沼、ため池などの水面をおおうように葉を広げます。

茎と葉をつなぐところ（葉柄）は少しふくれていて浮き袋の役目をしています。７月から９月の頃、葉の間から白色または少しピンク色をした花を１つずつ咲かせます。一日花といって一日だけ咲いて、しぼんでしまいますが、虫によって受粉されると子房がふくらんでヒシの実ができます。

ヒシは一年草でヒシの実は株からはなれて、水の底に沈んでいきます。翌年、水の底から長い茎を伸ばして水面に達すると葉を広げます。

ヒシの実は、昔から貴重な食べ物として利用されてきました。生で食べたり、ゆでたり、あるいは粉にして団子や餅にして食べます。味は栗のようで、デンプンが多く含まれています。

４．カサスゲ（カヤツリグサ科）

ふれあいゾーンの「ふれあい池」で地下水をくみ上げている近くにカサスゲが生えています。このカサスゲは自然に生えたのではなく、池の景観をよくするために苗を移植したものです。

カサスゲは多年草で、湿地や川岸、池や沼のほとりに群生します。太い地下茎と根を土中に伸ばして大きな群れをつくります。茎は太くて丈夫です。また葉は線形でやや堅く、幅５mm～８mmです。カサスゲの仲間は数が多く、日本中で２００種あまりが生育しています。

昔は、カサスゲの葉を利用して笠や蓑を作りました。名前の由来も笠を作ったスゲからつけられたとも言われます。

文部省唱歌　「茶摘」に　夏も近づく八十八夜　野にも山にも若葉が茂る　あれに見えるは茶摘じやないか　あかねだすきに菅（すげ）の笠 と歌われています。

現在は、スゲでつくられた笠は使われていません。

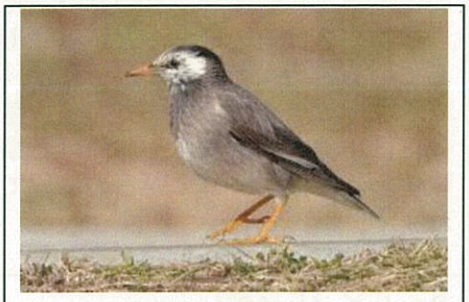
５．ヨシ（イネ科）

「里の森ゾーン」、「ふれあいゾーン」の水路および「ふれあい池」にはヨシが群生しています。ヨシは多年草で種子または地下茎で冬を越した後、４月から５月頃に新芽を出し、茎を伸ばし急速に成長します。そして、８月から１０月にかけて、大きな円錐型の花をつけます。

ヨシの若芽は食用になるほか、消炎・利尿などの薬用にもなると言われています。また、丈夫な茎は「よしず」や「屋根葺き」に使われます。

ヨシが群生しているところ（ヨシ帯）は魚や水鳥、水生昆虫などの生活場所、産卵場所として利用されます。

６．ムクドリ　（ムクドリ科）



秋から冬にかけて「びわこ地球市民の森」にムクドリの群れがよく見られるようになります。ムクドリは日本全域に生息する「留鳥」です。都市部でも電線や鉄塔に群れ連なって止まっている姿をよく見かけます。ムクドリは留鳥といわれながら、秋から冬にかけて集団で暖地に移動します。

繁殖期は春から夏で森の広葉樹や人家の軒先などに巣を作りオス・メス共に子育てをします。ヒナが育つと群れをつくるようになり、夜は一ヶ所に集まって数百から数千の集団ねぐらを作ります。秋の夕空をムクドリの大群がねぐらの森を目指して飛んでいく姿をご覧になったこともあるでしょう。

ムクドリは全長が約２４ｃｍ、全身が黒っぽく顔は白い、くちばしと足はオレンジ色、飛ぶと腰の白い輪が目立ち、足を交互に出して歩くなどが特徴です。

植物の種子や果物、昆虫類などを好んで食べます。「ムク」の木の実を好んで食べるため「ムクドリ」と呼ばれるようになったと言われます。